キャンパスの四季　Four Seasons in SHC　(No.32)　2015/02/20

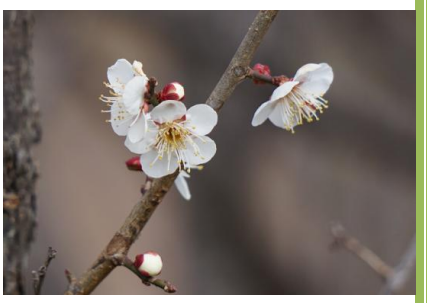
＜春は名のみの＞積雪予報の多い十日ほどでしたが幸いにもほとんど雪も無く氷雨(ひさめ)で済みました。ただ変わらず気温の低い日が多く、空模様や日の光も“早春賦”の歌詞「春は名のみの風の寒さや---(中略)---今日も昨日も雪の空---(中略)---春と聞かねば知らでありしを---」がぴったりでした。

(早春賦)吉丸一昌作詞、中田章作曲、安曇野あたりの早春を歌った唱歌。「知らでありしを」の後「聞けばせかるる胸の思いを　いかにせよとのこの頃か」で終わります。

＜ヤブツバキ＞→

一方、春の気配がしてきているのも確かです。葉を落とした木々の枝先が何となく赤みを帯び膨らんできています。ウメやヤブツバキの花も俄かに咲き出しました。

＜東風(こち)吹かば＞ウメの花からは天神さま、学問の神様を思い浮かべますね。「東風吹かば匂をこせよ梅の花あるじ無しとて春な忘れそ」、ウメを愛でた菅原道真が大宰府へ左遷（901 年 1 月末）される時に詠んだ歌です。奈良時代には花といえばサクラよりウメだったようです。またウメの実に因んで“塩梅(あんばい)”とか“梅根性(頑張り屋さん)”などいろんな言葉があります。でも“梅の木学問”は頂けません。



＜ウメ(白梅)＞

(梅の木学問)「速く伸びるが大成しない」の意、一方“楠学問”は「ゆっくりと成長し大成する」の意。樹木の生長速度と成木の大きさからの喩えです。

＜すずめの学校＞つい最近まで寒さの中で丸く膨らんでいたスズメたちは日差しの中に「冬の峠は越えた」と感づいているようで、「春は名のみ」でなく「おひさまの知恵こぼれおり寒雀(藤幹子)」です。２葉の写真(上)はスズメたちの合唱の時間と体操の時間に見えませんか。体操といえば雑木林にやって来るエナガもコゲラもクヌギやナラの枝を忙しく動きまわり時にはぶら下がったりしています。ところでコゲラが木を啄く音はリズミカルでよく響きますね。頭とか首の構造はどうなっているのでしょう。

スズメは年中身近にいて普段あまり気にも留められません。しかし文学や絵画には最も繁く登場しますね。俳句の季語には“雀”はありませんが寒雀、子雀など四季を通じて十以上あります。小鳥の名の漢字もヤマガラ(上写真)は“山雀”、そのほか“雲雀(ヒバリ)”、“四十雀(シジュウカラ)”などなど“雀”に何か付いたものが幾つもあります。小鳥の世界に君臨するスズメ!!

＜上：エナガ、下:コゲラ＞

(文と写真：松本正勝)